はなみずきだより

11･12月号

令和８年 11 月 ２ 日
武蔵野市立第四小学校
特別支援教室 拠点校校長
小　泉　　裕　樹
はなみずき教室

三小と本宿小の授業観察から

武蔵野市立第四小学校
校 長　　小 泉　裕 樹

１学期の間、三小と本宿小のはなみずき教室を何度か見学させていただきました。三小を訪れた際にうれしい再会がありました。私が副校長として在籍していたころの１年生が4年生になっていきいきと活躍していたのです。その頼もしい姿から胸が熱くなるのと同時に、これまでの丁寧な学習の積み重ねと、在籍学級に戻ってからも周りの友達と温かいつながりを築けているのだろうなということが伝わってきました。改めてはなみずき教室がもたらす学びの価値を実感した瞬間でした。

本宿小では、子どもたちが「にんじゃ」になって修行を励む姿に目を細めたり、ボッチャに私も混ぜてもらったりと心温まる楽しいひと時を過ごしました。

両校の様子を見て心に残ったのは、教員の深い愛情に満ちた眼差しです。教員が子供たちの困り感に寄り添い、じっと待ってあげたり、一人一人の歩幅に合わせた言葉を掛けたりしていました。目標を達成できたとき、教員から「できたね！」と認められ、価値付けしてもらった子どもたちの表情は自信に満ちあふれていました。

教員が子どもたち一人一人の目標を理解し、単元後のめざす姿を共有しているからこそこうした温かい関わりが生まれるのだと思います。一見当たり前に見えるこの光景の中にこそ、子どもたちが安心して自分らしく育っていける最高の環境があります。

【保護者面談のお礼】

先日はご多用の中、面談にお越しいただきありがとうございました。お顔を合わせながらお互いの情報を共有でき、有意義な時間となりました。これからの指導に生かしてまいります。なお、3学期に今年度最後の保護者面談を予定しております。詳細は、近くなりましたらお知らせします。

【今後の予定について】

・2学期指導終了日　12／15（火曜指導）、16（水曜指導）、17（木曜指導）、
　　18（金曜指導）、21（月曜指導）、
・3学期指導開始日　1／18（※本宿小は振替休日のため 19 日）以降、各曜日の指導を開始します。
・3学期保護者面談　2／24（水）～3／12 日（金）

【連絡袋の返却について】

紙の連絡ファイルを使用している児童で、忘れてしまったときには、はなみずき連絡袋に記録を入れて渡しています。連絡袋は、必ずご返却くださいますよう、お願いします。



はなみずき教員の独り言



【特異な才能のある子ども（2E）たち】

2022 年 9 月の文部科学省有識者会議「審議のまとめ」によると、特異な才能のある子は高度な理解力をもつ一方、過敏な五感や高い身体的活動性等の特性から、能力の凹凸や周囲との不一致により学習の不均等や孤立感等の困難さを抱えやすいとされています。

文部科学省は、数学・科学・芸術など「特定の分野」で突出した能力・関心を示しながらも、学校では特別な指導・支援を必要とする児童生徒のことを「2E（Twice-Exceptional：二重に特別な状態）としています。才能と困難を併せ持つ児童への対応として、「長所や才能を伸ばす関わり」と、「障害や特性に起因する困難さを補う配慮」を一体的に行うことを提言しています。学校では、個別最適な学びで得意分野を伸ばしつつ、過敏さ等の困難さに寄り添う環境調整と居場所づくりを行う支援をしていくこと、また、学校外でも大学や専門機関の高度な教育プログラムの活用、フリースクール等の居場所確保、医療・福祉等と連携した専門相談体制の構築することが求められています。

どの子も得意分野をもっています。保護者と学校、専門機関と連携しながら、子どもたちの困難さを軽減しつつ、よさを伸ばしていけるといいですね。



9・10月の活動報告



「勝敗・気持ちの切りかえ」

勝敗は、ゲームやスポーツで経験することが多いと思われがちです。しかし、学校生活の中で子どもたちは、何かを決定するときのじゃんけん、中休みに仲間と行う鬼ごっこなどの遊び、授業中の活動（班ごとに競う活動）など大小様々な勝敗や勝敗がつくことと同じような心的負担を感じている場と向き合っています。このような様々な場面で、大切なことは気持ちを切り替えて再チャレンジする力です。負けや失敗を受け入れ、再挑戦することでより深い学びにつながります。

自分に合った気持ちの切り替え方法を見つけるために、様々な切り替え方法を試す学習を行いました。6 秒数える、ストレッチをする、好きなことをイメージする、水を飲む…様々な方法を小集団の仲間と試す中で「ストレッチしたら怒りはまだあるけど、（心の中に）隠せた」「水を飲むとイライラが小さくなった」と自分に合った方法に気付くつぶやきもありました。自分に合った切り替え方法を知ることで、学校生活で「次、頑張るぞ！」と更に深い学びに向かう姿につなげていきたいです。

「　こんなときどうする？　」

個別指導では、一人ひとりの実態に応じて、「こんなときどうする？」という活動に取り組んでいます。具体的な場面を設定し、実際にその場面になったときに、どのような対応をすればよいのかを考えることで、困ったときに適切に支援要請を出すなど、対応する力を身に付けています。

最初は解決策が思いつかなかった児童も、この活動を続けていく中で困ったときの対応方法を何個も学びました。それらを生かして「プレセカンドスクールで、お友達とはぐれてしまったら」という場面設定では、「近くにいる大人に伝える」と自ら解決策を考えることができました。頭の中だけで考えるのではなく、考えた行動のセリフを実際に演じることで、よりイメージを膨らませています。

困ったときにどのように助けを求めたらよいか、学校生活だけではなく社会で生きていくためのスキルとして、今後も支援を続けていきます。